

三巴自治区
保存版

みんなで楽しく未来をつくらう!



しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!

WE
LOVE
しもやま

2021.4 - 2026.3

まちづくりに大切な2つのこと

1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にしていましょ!

2 みんなで楽しく 未来をつくらう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、
事業者が地域のために行うこと、
みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク
周りにある18の円は11分野と
7つの自治区を表しています。

しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。

まちづくりの方向性(10年間)

具体的な取組(5年間)

後期の取組

10年後の
将来像

下山の10年後の将来像

子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち
しもやま



みんながめざす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくれます。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくれます。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

具体的な取組

三巴自治区の取組は、
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



三巴自治区プラン

対象のエリア 蘭町、黒坂町

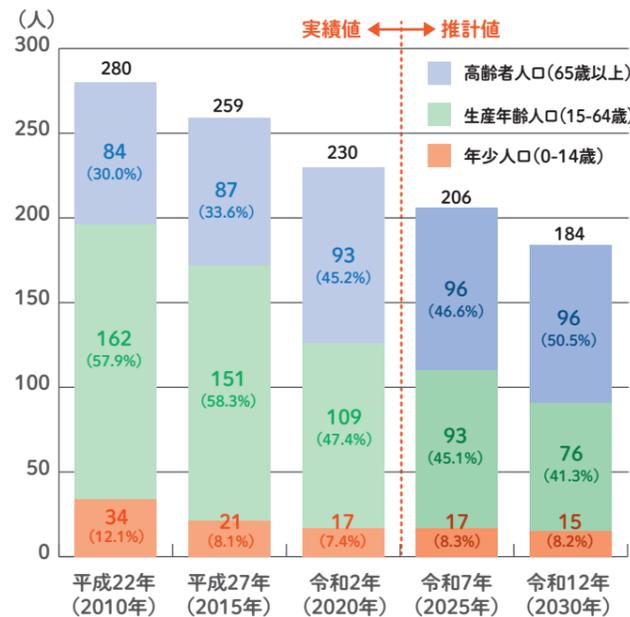
1 三巴自治区の現状

子どもや若い人の減少、高齢化率の増加

- 令和2年の人口は230人であり、この10年間で50人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢者人口が増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は184人となり、年少人口、生産年齢人口の減少は続き、高齢化率は50.5%になると予想されます。

高齢化が地域に及ぼす影響

- 住民の減少と高齢化に伴い、地域の運営や行事などの担い手が少なくなっています。外からも多くの方が訪れていた三巴の朝市も、現在では、廃止されています。
- 若い世代の移住世帯も地域に溶け込みながら暮らしていますが、子育てや子どもの通学などにおいて不便を感じてきている人もいます。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計

※各年 10月1日 年齢は学齢
(実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下山支所の推計)

2 三巴自治区の10年後の将来像

- ▼ 地区外に転出した人達とも、良好な関係が築かれており、関係人口が維持されています。
- ▼ 空き家や空き地は増えていますが、放置されることなく、移住者用の住宅などとして活用されています。
- ▼ 隣近所のあいさつや会話が日常的に行われ、支え合いや見守りなど暮らしの安心が感じられています。
- ▼ 若者の定着や移住が進み、子育て世帯にとって住みやすい地域になっています。
- ▼ 外の人の力も借りながら農地や山林が守られており、農業や林業の担い手となる人も出てきています。
- ▼ 郡界川沿いの河津桜を育む活動が多くの人々の参加により行われており、春には花見に訪れる人が増えています。
- ▼ ホタルが生息しやすい環境づくりが続けられ、初夏にはホタルが飛び交う風景が見られています。
- ▼ 自治区や組の運営・行事は、少しずつ形を変えながら、次の世代に引き継がれています。
- ▼ 巴太鼓などの伝統芸能やお祭りなどの行事が守り続けられており、子どもや高齢者、地区外に転出した者にとっても「三巴の誇り」となっています。

3 三巴自治区の5年間の取組

取組1 定住・移住を促進して人口の維持を目指そう

定住者と地区外に転出した者の交流の機会を確保し、Uターン者の増加や関係人口の維持のために花見・夏祭りなど交流事業を継続して実施します。また、移住者を増やすための空き家・空き地の発掘を継続的に実施します。

取組2 子育て世代の母親・女性同士の交流の場をつくろう

転入者や嫁いできた方など、地域との交流の機会が少なく、地域に溶け込むことや情報を得ることが困難になっています。地域の行事や今ある仕組みを活用しながら交流の場を作ります。

取組3 農地や山林を継続的に維持管理しよう

地区内には多くの農地や山林があります。健康づくりのためにも農業・林業を継続的に実施します。特に農地に関しては、イノシシ、シカ、サルなどの獣害対策を重点的に取り組みます。

取組4 自然の良さを守り、育てよう

自然環境の良さを守るため、引き続き草刈りや環境整備を継続します。また、郡界川沿いに植栽された河津桜を手入れし、さらにホタルやササユリなどを増やす環境づくりを進めます。

取組5 地域活動の維持や発展に取り組もう

お祭りや巴太鼓などの伝統行事や農林業や地元料理などの地域の知恵を大切に、地区外の方の助力を受けながら、後世に受け継ぐように保存活動を行います。

